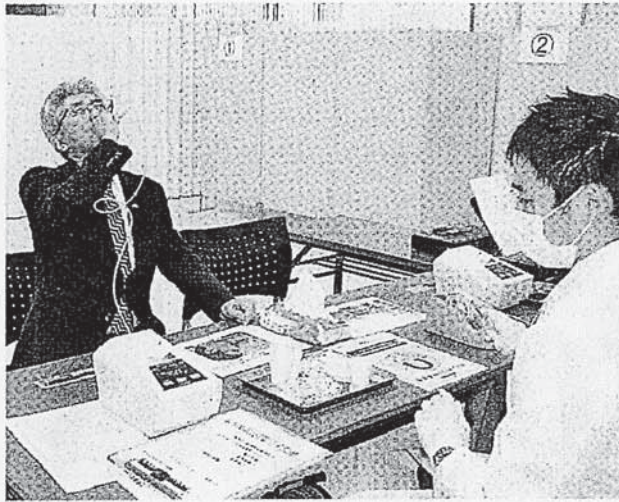


弘大・ライオン

弘前市職員歯磨きに変化

2回目保健検査 新モデル開発目指す



弘前大学とライオンは15、18日、弘前市職員を対象に口腔に特化した啓発型健診「歯科保健検査」を、弘大の健康未来イノベーションセンターで行っている。今回は昨年7月に続く2回目で、前回からの行動変容や口腔健康度の向上を検証し、新たな歯科健診モデル「歯科保健検査」を受ける櫻田市長（左）

の開発やサービスの展開を目指す。弘大COIプロジェクトの一環。弘大とライオンの事業提案を受け、市が実証フィールドを提供した。今回は約80人が口臭や唾液の検査や口腔ケアについての指導を受ける。弘大COIが取り組む「啓発型健診」は、健康リテラシーが高まった。口腔ケアの大切さを理解して実践する

とで、意識改革や行動変容につなげ、健康増進を図るのが狙い。歯科保健検査は、ライオンが開発した唾液検査システムや、口腔内写真撮影などを活用し、従来の歯科健診との比較から、スクリーニング検査の項目としての可能性を探るほか、コストを抑えた新たな歯科健診モデルの開発を目指す。

16日に健診を受けた櫻田宏市長は「歯の健康は内臓にも関わりがあり、内科と歯科は関連していることが分かった。口腔ケアの大切さを理解して実践する

この効果を感じた」と話した。弘大などによると、前回健診時と比べて受診者の歯磨きの回数が増えたほか、歯の場所を意識して磨く人が増えるなど、多くの変化

が見られたという。同大ヘルスケアマネジメント学講座の和田啓二助教は「今回の検証などを踏まえ社会実装に結び付けていきたい」と述べた。
(成田真由美)